

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：15501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17195

研究課題名（和文）商業者の実践に基づく基礎理論の展開：参与観察およびライフストーリー調査の併用

研究課題名（英文）Development of basic theory based on the practice of local merchant

研究代表者

松田 温郎 (Matuda, Atsuro)

山口大学・経済学部・准教授

研究者番号：60632693

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：小規模小売業者の経営実践を理論的に理解することを目的として調査を実施した。調査方法は参与観察およびライフストーリーインタビューである。調査協力者は4社の青果店および1社の食料品店である。調査・分析に用いた理論は品揃えおよび商品取り扱い技術に関する商業理論である。調査の結果、品揃えと商品取り扱い技術に関する理論的枠組みを構築することができた。まず、品揃えについては品揃えの状態に着目して理論化し、計画的品揃え、適応的品揃え、解消的品揃えの概念を提示した。次に、商品取り扱い技術を分析技術と販売技術に細分化し、それぞれが行使される根拠情報として在庫情報と顧客情報を位置付けた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果によって、60年以上前から学会に蓄積されてきた商業理論について、一般理論から中範囲の理論へと展開することができた。また、その際の調査手法として、参与観察とライフストーリーインタビューの有効性を示すことができた。これらの成果は、日本商業学会において学会賞（奨励賞）として評価されている。さらに、実務家を対象とした雑誌への寄稿および講演などを通じて、広く社会的な貢献を果たしている。

研究成果の概要（英文）：This research was conducted for the purpose of theoretically understanding the management of small retailers. The survey method is participant observation and life story interview. The survey collaborators are four fruit and vegetable stores and one grocery store. The theory used in the survey/analysis is a commercial theory related to sorting and goods handling skill.

As a result, we were able to establish a theoretical framework for sorting and goods handling skill. First, the assortment was theorized by focusing on the state of the assortment, and the concepts of planned assortment, adaptive assortment and resolvable assortment were presented. Next, the goods handling skill was subdivided into analysis skill and sales skill, and inventory information and customer information were positioned as the basis information for exercising each.

研究分野：商業論、マーケティング論

キーワード：小売業 品揃え 商品取り扱い技術 参与観察 ライフストーリー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

小規模小売業者を対象とした理論研究は森下(1960)を基盤として研究蓄積がなされてきた。時代的な背景もあり、当初の研究は一般理論を志向して進められてきた。その後、実務に対する研究の実用性が社会的に要請されるようになり、これらの商業研究もまた同様の方向性を試行したものの、一般理論が原型であった点から、十分な展開がなされたとは言い難い状況であった。

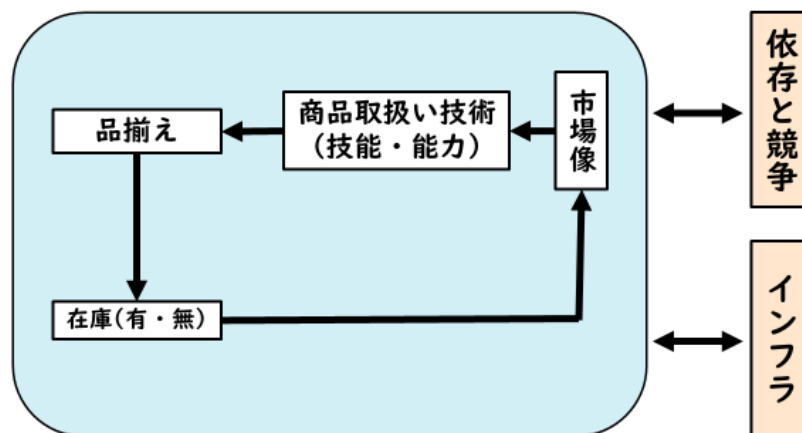
そのような状況を破った研究が石原(2000)であった。理論と実務の橋渡しをするために既存理論を改訂するという問題意識のもと、抽象的な一般理論を、現実と対話可能な形にまで展開することに成功したのであった。しかし、この研究は小規模小売業の伝統的な集積である商店街を基本的な分析単位とした理論であり、小規模小売業者単体を理論的にとらえるものではなかった。そこで、単体の小規模小売業者をどのように理論的に扱おうかということが研究課題として残されていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、このような理論的系譜に基づき、石原(2000)の理論概念に基づきつつ単体の小規模小売業者をとらえる理論枠組みを構築することで、商業研究をより現象への説明力が高い理論へと展開することである。

鍵となる概念は、長く先行研究で検討されてきた品揃えと商品取り扱い技術である。これらの概念を個店単位で扱えるように改訂あるいは新たに構築しなければならない。既存研究で蓄積されてきた議論を概念的に整理したものが以下の図1である。これらは石原(2000)の議論を参考としているものの、石原(2000)の主たる研究目的は単体の小規模小売業者をとらえることではないため、本研究の問題意識に沿って図示することはやや拡大解釈であり、更なる精緻化が必要とされている。

図1：石原(2000)に基づく小規模小売業者の実践



出所：筆者作成

3. 研究の方法

調査方法は参与観察とライフストーリーインタビューである。その理由は、小規模小売業者の多くが労働集約的な商品取り扱い技術を競争優位の源泉としており、それらを捉えるためには実際に観察する必要があったからである。また、小規模小売業者の多くがインタビューに不慣れであり、自らの実践を言語化することが困難であったことも参与観察が必要である理由のひとつである。

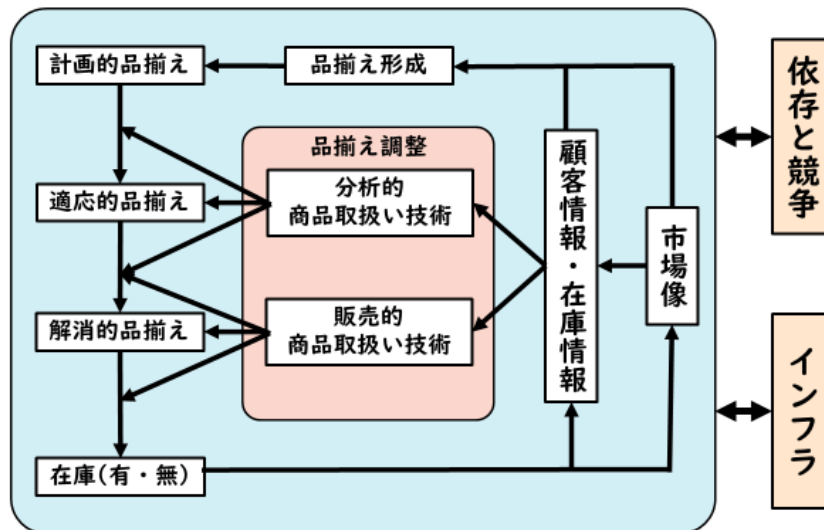
また、それらの商品取り扱い技術がどのように熟達されてきたのかという点を捉えるため、ライフストーリーインタビューを採用した。また、小規模小売業者の実践は経営者の人間性と深く結びついていることも、ライフストーリーインタビューが必要である理由のひとつである。

調査対象は、関係者の紹介を主とした便宜サンプリングによって実施した。この方法は探索的調査に用いられるものであり、本研究において適切な方法である。また、本研究は基礎理論の新たな展開を試行するものであり、調査対象は逸脱事例などの特徴的な事例が有効である。その点から、年間商品販売額や生産性などの基本的な指標としながら、一定の逸脱性を有すると考えられる事例を収集し、調査協力を得た。

4. 研究成果

逸脱性が高いと考えられる2社の青果店での調査結果を踏まえ、以下の図2で示す概念化を果たした。

図2：本研究の成果に基づく小規模小売業者の実践

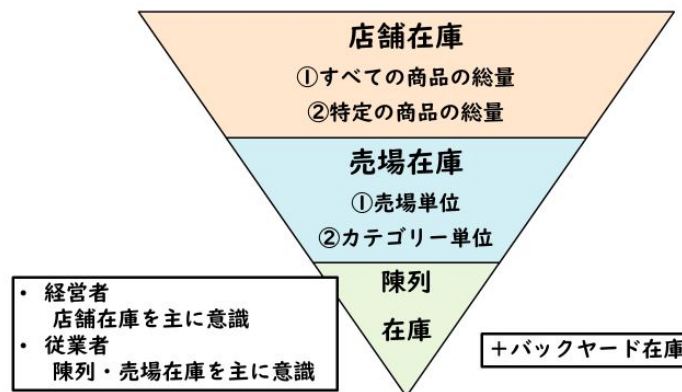


出所：筆者作成

この枠組みでは、まず品揃えの状態に着目することで、品揃え概念を計画的品揃え、適応的品揃えおよび解消的品揃えに概念化している。また、商品取り扱い技術を品揃え形成と品揃え調整に分類し、品揃え調整については分析技術と販売技術に細分化している。さらに、品揃え調整が用いられる際の根拠情報として、顧客情報と在庫情報を位置付けている。これらの枠組みによって、小規模小売業者の経営実践がどのようなようになっているかを理論的に捉えることが可能になった。

また、図2の枠組みをより精緻に説明するため、既存研究における在庫概念を図3で示すとおりに細分化して概念化している。これらは、営業時における売場担当者がどのような単位で在庫を認識しているかという点に着目して概念化したものである。

図3：在庫概念の精緻化



出所：筆者作成

この枠組みは、図1で示した既存研究と比べて時間的な説明力が高く、小規模小売業者の短期的な営業の変化を捉えることに適したものである。一方、戦略次元の長期的な変化を捉えることには適しておらず、その点については更なる研究が必要である。

本研究は日本商業学会において学会賞(奨励賞)を受賞しており、一定の学術的な貢献があったと考えることができる。また、これらの研究成果の発表後、青果物の業界雑誌からの原稿依頼や商工会議所からの講演依頼にも応えており、研究成果を広く社会に波及させることにも貢献している。

参考文献

石原武政(2000)『商業組織の内部編成』千倉書房。

森下二次也(1960)『現代商業経済論：序説＝商業資本の基礎理論』有斐閣。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡邊孝一郎・松田温郎	4. 巻 67(5)
2. 論文標題 地域商業者の経営意識に基づく品揃え物の構想に関する試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 新島裕基・松田温郎	4. 巻 66(5)
2. 論文標題 地域商業に対する評価の視点：大学生のイメージに基づく予備的考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 195-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松田温郎	4. 巻 2017
2. 論文標題 小規模小売業における品揃え物と商品取扱い技術の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第67回日本商業学会全国研究大会報告論集	6. 最初と最後の頁 43～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松田温郎・地頭所里紗	4. 巻 64巻6号
2. 論文標題 小売店舗の形態および消費者の利用回数に基づく快・不快感情の誤帰属	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 31 - 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新島裕基・松田温郎・瀨満久・渡邊孝一郎	4. 巻 65巻3・4号
2. 論文標題 地域商業活性化型および中心市街地活性化型特定商業集積の開発および運営の実態(1)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 31 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新島裕基・松田温郎・瀨満久・渡邊孝一郎	4. 巻 65巻5号
2. 論文標題 地域商業活性化型および中心市街地活性化型特定商業集積の開発および運営の実態(2)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 17 - 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 松田温郎
2. 発表標題 定性的研究の評価基準について
3. 学会等名 第72回実践経営学会関西支部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田温郎
2. 発表標題 小規模小売業における品揃えと商品取扱い技術の検討
3. 学会等名 日本商業学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田温郎
2. 発表標題 小規模小売業者の商品取扱い技術の検討
3. 学会等名 日本商業学会九州部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田温郎・渡邊孝一郎
2. 発表標題 商人家族研究の課題
3. 学会等名 第67回実践経営学会関西支部
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡邊孝一郎・松田温郎
2. 発表標題 商人家族概念の再考
3. 学会等名 日本商業学会九州部会7月例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松田温郎
2. 発表標題 小規模小売業者の品揃えと商品取扱い技術
3. 学会等名 日本商業学会関西部会9月例会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田中道雄・濱田恵三・佐々木保幸・稲田賢次編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 223
3. 書名 日本社会の活力再構築：まちづくり・流通・マーケティングからの提言	

1. 著者名 田中道雄、白石善章、南方建明、平山弘、柳純、松田温郎、渡邊孝一郎、田村直樹、稲田賢次、伊部泰弘、田村公一、清水真	4. 発行年 2016年
2. 出版社 同文館出版	5. 総ページ数 258 (pp.99-114)
3. 書名 中小企業マーケティングの構図	

1. 著者名 松田温郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 碩学舎	5. 総ページ数 271
3. 書名 小売商のフィールドワーク：八百屋の品揃えと商品取扱い技術	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----